



第178号
平成24年11月1日
編集発行
公益財団法人岡山県学校給食会
岡山市南区浦安中町59番地の4
TEL 086-263-6465代
URL: http://www.ogk.or.jp/

県学給だより

岡山県学校給食会会報

今、学校給食を考える

「子どもたちの笑顔いっぱいの給食時間にするために」

について聞きました。

今こそ

教材となる献立を 考えてみませんか

美作大学生生活科学部

食物学科

講師 森本恭子

管理栄養士養成課程における「給食経営管理論」の授業で、学生に「学校給食で思い出に残っている献立は」とワクワクしながら尋ねると、「カレーライス」「ラーメン」「ゼリー」「すぐには思い出せない」などの答えでした。また、盛りつけに及ぶと「フォーク一本でカットやスープを食べていた」「ご飯のそばにトンカツや魚フライを盛っていた」「トレー一枚に全部盛りつけていた」、最後には「給食がなかった」などの話になりました。ちょっと残念な感想にワクワク感が一気に消えてしまいました。

さて、近年、食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、偏った栄養摂取や朝食欠食など子どもたちの食生活の乱れが、生活習慣病の低年齢化に拍車をかけ新たな健康課題となつています。これらの課題を改善するためには食育が重要とされ、学校給食を「生きた教材」として活用することが求められていま

す。振り返ってみると、すでに、平成四年、当時の文部省は「学校給食指導の手引」を改正し、学校栄養職員を学級活動等において積極的に活用し、学校給食献立を教材とした給食指導を求めていました。

あれから二十年たった今、教育の一環として実施される学校給食ですが、これほど地域差のある教育活動はないと言われています。これは、施設の設備や規模、調理員数等の諸条件に左右されることが大きいと思われ、ますが、栄養管理者（以下、栄養教諭・学校栄養職員）の考え方も影響しているのではないかと考えられます。このことは、学生の話からも伺えますが、**完上**で公開されている献立を、**完全給食**としている主食、ミルク、おかずの組み合わせを「**主食+主菜+副菜**」で分析したところ、「**主食+主菜+副菜**」に分類できる献立は約四〇%にとどまり、「**主食+主食+主菜**」、「**主食+主菜+主菜**」、「**主食+副菜+副菜**」などの組み合わせとなる献立が多く、教材となる献立と嗜好を優先した献立とが二極化しており、この実態が地域差を生んでいるのだと思われました。自身の栄養教諭時代を振り返ってみても、時には献立の栄養価や食品構成ばかりを気にし

て、一つの料理に多くの食材を入れ過ぎて、提供した給食を目の当たりにしてみると副菜が山盛りになり主菜が埋もれた状態になったり、汁物に具が多過ぎて煮物のようになったりした経験があります。パソコン上の計算だけではなく、提供した食事の質や子どもたちの満足度を評価する品質管理が大切であったと反省しています。

今後、児童生徒の食に起因する健康課題に適切に対応するためには、食育が一層重視されます。今こそ、学校給食の献立が生きた教材となるように、献立と食育を一体化させた献立計画を立案し、栄養管理者の力を発揮する時だと思えます。子どもたちの食をおとした健康づくりを願って、笑顔いっぱいの給食時間にするためにも、献立作成の意図が食育に生かされ、生きた教材としてふさわしい献立になるよう今一度、基本に立ち返り献立を考えてみませんか。

保護者として

学校給食に望むこと

保護者代表 山本 賢昌
(岡山県学校給食会評議員)

人生の愉しみの大半は食べることにあります。人生

八十年、約三万日、だれしも毎日毎日、日々の食事をします。一日三食とすると約九万回食べることになります。この九万回のゆしみがあからこそ、人生は生きるに値するようなものです。

私も、小学校中学校の計九年間、学校給食のお世話になり九万回の約一八〇〇回を学校給食にゆしませて頂きました。今でも、おいしかったメニューについては、その姿、味、臭いまで思い出せません。給食を残したことは一度だけ、給食パンの味に塩気がなくおいしくなかった時にそのパンを少し残しただけです。きつと製パン業者さんが塩の量を間違えたのだと思います。給食のお代わりは男女友達と競ってしていました。給食時間は、学校生活の中では最も楽しい時間でした。

今でも、給食時間は、子どもたちにとって、学校生活の中では最も楽しい時間だと思っています。私たちのころもそうだったように、今も、子どもたちは笑顔いっぱい給食をおいしく頂いていると思います。私の小学生の女の子は、「今日の給食のクリームシチューはおいしかった。学校のクリームシチューが一番お

いしい」と母親泣かせの感想を聞かせてくれます。私も最近、PTAの関係で給食の試食をさせて頂きましたが、昔と変わらず大変おいしかったです。昔と違うのは、米飯給食の日が多いことです。私は月に二回程度（記憶では）の米飯給食を楽しみしていましたので、大変うらやましい限りです。

子どもたちの給食時間は、今も昔も笑顔いっぱいです。この笑顔を裏切らないように安心安全の学校給食の提供をお願いします。

保護者としては、子どもたちに学校給食にかかわるすべての人に「感謝」の気持ちを抱いて欲しいと思っています。なので、安心安全の給食の提供だけでなく、農林水産業の現場や食品加工工場の現場、給食センターの現場などで子どもたちのために働いてくださっている人々の顔や姿の情報を子どもたちに提供していただければありがたいと思います。

小学校での取組み

赤磐市立城南小学校

校長 東南 信行

赤磐市立城南小学校は児童数一四七人、赤磐市の北部に位置し、豊かな自然に恵まれた学校です。隣接する吉井学校給食センターで調理する学校給食は、汁ものなどの温かい料理は温かいまま、サラダなどの冷たい料理は冷たい状態で届けられています。ところで、現在の給食センターは平成二〇年四月に新設されたもので、それ以前は同地域の少し離れたところがありました。給食センターが近くなったことで、三校時目ともなる

と魚を焼く、にんにくを炒め、カレーを煮こむといった調理過程の香りまでもが学校に届きます。その影響もあってか、うれしいことに給食を楽しみにする児童がますます増えてきたように思います。

さて吉井では、JA岡山東吉井支店や特産館、生産者の方々と連携して、年間を通して地域でとれた野菜や果物を給食に使っています。その縁もあって先日、三年生の児童二八名が、総合的な学習の時



収穫体験

間で「吉井のいいところをさがそう」をテーマに地元のおとう農園の見学と収穫体験をさせて頂きました。学習のねらいは、①地元でとれる農作物について知り、ふるさと吉井のよさに気づく。②生産に関わっている農家の方の思いにふれ、感謝の心を持つ、というものです。児童は、生産者の方の「是里（これさと）は昼と夜の寒暖の差が大きいため、甘みの強いぶどうになる」「天候によって、毎年同じようには育たない」「できるだけ農薬を使わず、安全なものをつくりたい」などのお話を真剣に聞いていました。そして、教えていただいたおいしいピオーネの見分け方を参考に、夢中になって収穫しました。



ぶどうおいしい!!

学校に帰ると、学習したことを校内新聞にまとめて掲示し、翌日にはお昼の放送で、自分たちが学んだこと、収穫したピオーネが給食に出ていることなどを広く全校に知らせました。三年生児童の体験と感動は他学年の子どもたちにも伝わり、この日は「いつも食べているぶどうよりずっと甘くて、おいしい」という感想が、あちこちで聞かれたほどです。

小規模校ならではの取り組みではありますが、現地に足を運んで、実際に生産者の方のお話を聞かせていただいたことで、児童の中に強い印象が残り、理解が深まったと感じています。栄養教諭には、地域の食材を学校給食に活用するだけで



乳、チョウザメのフライ、地元野菜のサラダ、オニオンスープです。

初めての試みであり、まず、チョウザメについて知ることから始めました。新見漁業共同組合へ出向いて特徴を詳しく教わり、地元料理店で料理長からおいしく料理する工夫を教わりました。チョウザメは、独特の香り、川魚の臭み、味があり、「おいしい」と言ってもらう料理に仕上げるのは安易なことではありません。調理員さんも懸命に努力を重ねてくださり、幾度とない試作の結果、フライが一番いいというということになり、それに合うソースも研究しました。しかし、当日、揚がったフライと研究したソースが微妙に合わず、急速ソース変更をすることになりました。配達直前でしたが調理員さんが素早く対応してくださり、おかげで満足のいく給食を子どもたちに届けることができました。

子どもたちは、初めてのチョウザメのフライを珍しそうに眺めていましたが、一口かじると「柔らかくておいしい」「お肉みたい」「また、給食に出してほしい」と目を輝かせて、全員が残さず食べてくれました。



チョウザメについて勉強

その後、こちらで事前で作成したクイズをしながら、チョウザメは鱗が蝶、全体がサメに似ていることからこの名が付いたこと、一億五千万年前に現れた古代魚であること、肉だけでなく頭や骨など全ての部位が食べられること、卵は世界三大珍味の一つ「キャビア」として珍重されていることなどを知らせました。

また、組合長さんのご好意で、生きているチョウザメと一メートル程もある剥製を子どもたちに見せることができました。子どもたちは「うわあ、大きい」「すごい」「初めて見た」「新見市はチョウザメが育ついい環境なんだ」等々、大歓声を上げました。この日の給食時間は、子どもたちの笑顔で満ちあふれていました。

学校給食運営支援に向けて

あ、大きい」「すごい」「初めて見た」「新見市はチョウザメが育ついい環境なんだ」等々、大歓声を上げました。この日の給食時間は、子どもたちの笑顔で満ちあふれていました。



学校の給食の様子

本校では、学校給食関係者の皆様に「今、学校給食を考